

【イベント】

割れない透明素材が羽田空港を彩る

——伊藤園インスタレーションにKINJO JAPANのガラスを採用

伊藤園が限定発売した『Ques-tea』を表現するインスタレーションにて、構造美を支える素材としてKINJO JAPANのガラスが登場 - 捨てずに利活用できるサステナブルな選択

家電製品のゴム部品製造において高い国内シェアを誇り、同社の土木事業としては大阪・関西万博の会場用地、夢洲の地盤改良にも携わった錦城護謨株式会社（大阪府八尾市、代表取締役：太田泰造）。

同社が展開するオリジナルブランド「KINJO JAPAN」の、ガラスと同等の透明度を持ち、割れにくいシリコングラスシリーズが、国内最大級のクリエイティブの祭典「東京クリエイティブサロン2025（Tokyo Creative Salon 2025、以下TCS 2025）」の羽田エリアで展開されたコンテンツの一つに採用され、羽田空港第3ターミナルで実施されたインスタレーション展示「HANEDA SKY ～ピュアフィルターインスタレーション by 伊藤園～」にて展示された。



画像の説明：左からガラスの飲み口部分をぐにゃりと曲げた様子と、羽田空港第3ターミナルで開催されたピュアフィルターインスタレーション by 伊藤園にてシリコングラスとティーボトルが交互に積み重ねられた光輝くタワー

展示作品「HANEDA SKY ～ピュアフィルターインスタレーション by 伊藤園～」は、伊藤園が限定発売した新製品の水出しティーバッグ「Ques-tea（クエスティー）」の世界観を、空港というグローバルな場で伝えるインスタレーション作品。環境配慮型の日本初・植物由来の生分解性フィルター「ピュアフィルター」を使用したQues-teaは、視覚と香りでお茶の新たな楽しみ方を提案した。

この革新的なアイデアを空間として表現するため、KINJO JAPANの透明なシリコングラスとQues-teaが交互に積み重なり、まるでシャンパンタワーのような優雅なティータワーを構成。水と光が交錯する空間に浮かび上がるティーバッグ、香りを閉じ込めたボトル、その美しさを静かに支えるガラスは、訪日外国人をはじめとする多くの来場者を魅了した。



画像の説明：左から1枚目）伊藤園が限定発売した、水出しティーバッグ「Ques-tea（クエスティー）」が入ったボトルと、KINJO JAPANのシリコングラスが交互に並べられ、7段に積み上げられたティータワー。左から3、4枚目）小ぶりのサイズが特徴のKINJO JAPAN FO（別名：SAKEグラス）に、生分解性フィルターに入ったQues-tea。フィルターの網目が見えない美しいデザインが特徴。ピュアフィルターインスタレーション横で行われた試飲会では「グリーンティー×ローズ」「グリーンティー×カモミール」「ジャスミンティー×キンモクセイ」「台湾烏龍茶×ミックスハーブ」の4種の水出しティーが提供

さらに、展示後のKINJO JAPANのシリコングラスは、単なる展示物にとどまらず、実際にガラスとして機能し、捨てずに利活用できる点がサステナブルな選択肢となっている。現代のライフスタイルにおいて、持続可能な製品を選ぶことが求められる中、このガラスはそのニーズに応えるアイテムとして位置づけられている。

同社は創業89年を誇るゴム製品製造技術をもとに、自動車、スポーツ用品、食品関連、医療機器など多岐にわたる分野で活躍し、大手メーカーのパートナーとして今もなお多様なシーンで人々の暮らしを支えている。今後は、その技術力とデザイン性を融合させたオリジナルブランド「KINJO JAPAN」を通じて、食器や生活用品にとどまらず、アートやサステナブルな取り組みと結びつけ、新たな価値を生み出す素材へと進化を遂げていく。

割れない安心と美しい透明感「シリコングラス」の特徴

「KINJO JAPAN」のシリコングラスシリーズは、高い透明度を保ちながら、ゴム特有の弾力を損なわない希少なシリコンゴム素材で作られている。この素材は通常のゴムに比べて非常に高価で、透明度が高いため、製造には高度な技術が必要である。

また、シャープで際立つカッティングデザインを実現するため、金型設計や温度管理を徹底した成形技術が活用されており、鏡面のように磨き上げられた金型が、この輝きとクオリティを支えている。

本製品は電子レンジでの使用が可能で、耐寒・耐熱性にも優れているため、日常使いはもちろん、アウトドアシーンでも幅広く利用されている。



画像の説明：上段) グラスの飲み口部分をぐにやりと曲げた様子
下段) 左から万華鏡のような輝きを放つガラスの底面と輝きの秘密を支える金型の一部

KINJO JAPANについて

KINJO
JAPAN

大手家電メーカーや大手スポーツ用品メーカーなどに向けてゴム部品を製造・販売する錦城護謨が2020年に立ち上げた初のオリジナルブランド。創業89年の歴史を誇る技術力を用いて、ゴムの可能性を最大限に引き出した製品開発を行う。ブランドメッセージは『"使う"に自由を.- Use It Your Way - 』。

最新情報はオフィシャルサイトおよび各種SNSにて更新予定

Webサイト：<https://www.kinjojapan.com/>

□ブランド誕生の経緯や開発ストーリーを紹介したオリジナルコラムもnoteにて配信中

note：<https://note.com/kinjojapan>

※詳細アクセスは下記QRコードよりご覧ください。

会社概要

創業89年を迎える錦城護謨は、家電製品のゴム部品製造で国内トップシェアを誇り、土木事業では2025年の大阪・関西万博の会場地 夢洲の地盤改良工事にも携わる。

創業以来培った「技術力」を基に、自動車、スポーツ用品、食品関係、医療機器など多様な分野で活躍し、大手メーカーのパートナーとして人々の暮らしを支えている。近年では、屋内専用のゴム製視覚障害者用歩行誘導マット「歩導くんガイドウェイ」を主力製品とする福祉関連事業や、割れないゴムのグラスで話題の自社ブランド「KINJO JAPAN」での新製品開発を通じて、世界展開にも挑戦している。



錦城護謨株式会社

KINJO RUBBER CO.,LTD.

企業名：錦城護謨株式会社（読み：きんじょうごむ）

代表者：代表取締役社長 太田泰造

創業：昭和11年5月 本社所在地：大阪府八尾市跡部北の町1丁目4番25号

事業内容：工業用ゴム部品の生産・販売、軟弱地盤改良工事（設計・施工・管理）、視覚障害者歩行誘導マットの製造販売・施工、自社ブランド「KINJO JAPAN」での新製品開発事業など



KINJO JAPAN 公式サイト

<https://www.kinjojapan.com/>



リリース全文は下記URLより
最新記事をご覧ください

https://prtnews.jp/main/html/searchrhp/company_id/18023

本件に関する報道関係者様のお問い合わせ先

錦城護謨株式会社 業務統括部企画課 水田

TEL：072-992-2321 MAIL：ryohei.mizuta@kinjogomu.jp

WEB：<http://www.kinjogomu.jp>